

経済・金融 フラッシュ

中国経済： 11月8～9日に発表の経済指標の予想

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 中国では、8～9日に貿易統計、工業生産、小売売上高、固定資産投資、消費者物価指数など主要経済指標の発表が予定されている（当研究所の予想は下表のとおり）。
- 今回、特に注目しているのが消費者物価である。前回発表の9月は前年同月比3.1%上昇と預金基準金利（3%）を上回った。今回発表の10月にさらに上昇率を高めるようだと、不安定な動きを示している短期金融市場にとっては波乱材料となりかねないだけに、要注目である。

○11/8～9日発表の主要経済指標

発表 予定日	経済指標	当研究所の予測値		前回	
			対象期		対象期
11月8日	貿易収支 (百万ドル)	18,299	2013年10月	15,217	2013年9月
	輸出総額 (前年同期比)	-0.2%	2013年10月	-0.3%	2013年9月
	輸入総額 (前年同期比)	9.3%	2013年10月	7.4%	2013年9月
11月9日	工業生産(規模以上、実質付加価値ベース) (前年同期比)	10.1%	2013年10月	10.2%	2013年9月
11月9日	小売売上高 (前年同期比)	13.4%	2013年10月	13.3%	2013年9月
11月9日	固定資産投資(除く農家の投資) (前年同期比)	20.2%	2013年1-10月期	20.2%	2013年1-9月期
11月9日	消費者物価指数 (前年同期比)	3.2%	2013年10月	3.1%	2013年9月

① 工業生産〔発表予定日:11月9日(土)〕

9日(土)には、10月の工業生産(実質付加価値ベース、規模以上)が中国国家統計局から発表される。前回発表の9月は前年同月比10.2%増と8月の同10.4%増を0.2ポイント下回った。10月の製造業PMIは、生産指数が54.4%と前月の52.9%から大幅上昇したものの、新規受注が前月より低下するなど勢いは弱まっており、価格下落率も縮小してきたことから、10月はほぼ前回並みの前年同月比10.1%増と予想している(図表-1)。

(図表-1)

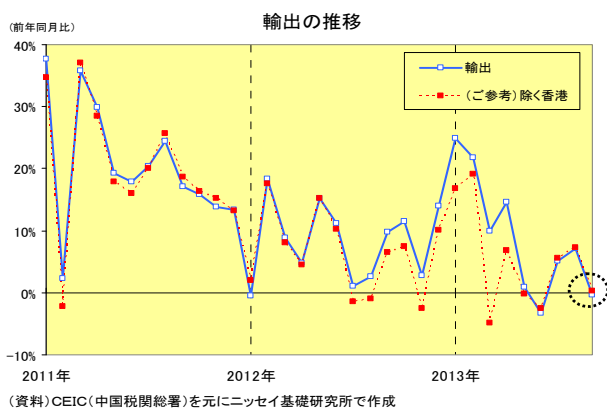


② 貿易統計〔発表予定日:11月8日(金)〕

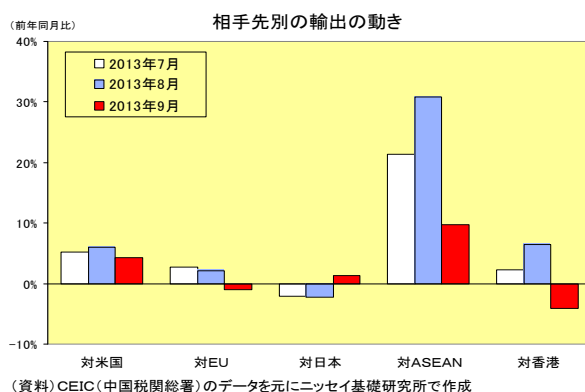
8日(金)には、10月の貿易統計が中国税関総署から発表される。前回発表の9月は前年同月比

0.3%減と8月の同7.2%増から前年割れに落ち込んだ(図表-2)。9月は欧米やASEAN向けも不振だったが、香港向けが“輸出水増し”の取り締まり強化で前年割れになった影響もありそうだ(図表-3)。今回発表の10月は、先行指標となる製造業PMI(新規輸出受注)が拡張・収縮の分岐点となる50を上回ってはいるものの、“輸出水増し”の反動減が続くと見ていることなどから、前年同月比0.2%減と予想している。また、反動減の影響がない日米欧向けの動きも要注目である。

(図表-2)



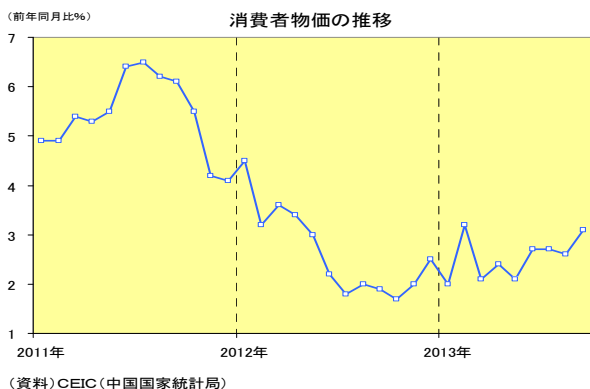
(図表-3)



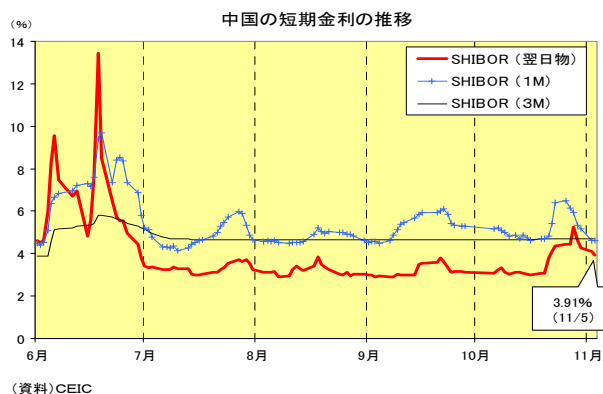
③ 消費者物価指数 [発表予定日:11月9日(土)]

9日(土)には、10月の消費者物価も中国国家統計局から発表される。9月は前年同月比3.1%上昇と、春節の月ずれの影響で一時的に同3.2%上昇となった今年2月以来7ヵ月ぶりに3%台に乗せた。依然として今年の抑制目標である3.5%前後を下回ってはいるものの、2%を割り込んでいた昨年夏をボトムに緩やかな上昇傾向にあり、預金基準金利(1年定期)の3%を再び上回ってきた(図表-4)。短期金融市場では、10月下旬に一時5%台に乗せたSHIBOR(翌日物)が11月5日には3%台に戻すなど落ち着きを取り戻しつつあるが、今回の消費者物価上昇率が高まるようだと、再び金融引き締め観測が浮上しかねないだけに要注目といえるだろう(図表-5)。

(図表-4)



(図表-5)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。